

アダムの家庭を中心とする復帰摂理①

I. 神がその墮落人間を救わなければならない理由

墮落はたとえ人間自身の過ちから起きたものであるとしても、神がその墮落人間を救わなければならない理由については、既に前編第三章第二節（一）で論じた。
（後編 1 章）

墮落はいくら人間自身の過ちによるものだとしても、神がその墮落人間を救済なさらざるを得ないことについては、既に前編第 3 章第 2 節 I で論じたところである。

- ① 神は、創造に失敗した無能な神になってしまう
- ② 神はこの結果に対して、創造主としての責任を負わなければならない
- ③ 人間には永遠性をもって創造なされた創造原理的な基準があるので、墮落した人間であるとして、これを全く無くしてしまい、創造原理を無為に帰してしまうわけにはいかない
- ④ 神は人間を創造なさり、三大祝福を成し遂げてくださることを約束

「わたしはこの事を語ったゆえ、必ずこさせる。
わたしはこの事をはかったゆえ、必ず行おう」（イザヤ 46/11）

II. 天一国主人の生活より

神様は、アダムとエバを見つめるたびごとに希望の心情が燃え上がり、彼らを見るたびごとに、彼らが自己完成して幸福な生活をするを思われて幸福の感情が燃え上がり、神様がつくってくださった天地万物を彼ら自身がつくったもののように主管して、楽しみ、などであげることを願われました。しかし、そのような希望の心情は、アダムとエバの墮落によって、すべて途絶えるようになったというのです。これが、私たちの先祖が過ちを犯した罪状の中でも、容認されない、とても大きな罪状だということを知らなければなりません。

しかし神様は、墮落した人間をそのままほっておくことができないのです。なぜですか。本来、人間を永遠の基準である原理的な法度によって造られたがゆえに、その基準を無視することはできないからです。墮落したアダムとエバを無にしたい心は切実でしたが、彼らを無にすれば、六日間につくられた全被造世界の原則を無にすると同時に、永遠の基準まで無にしなければならない立場になり、永遠の主体であられる神様の実存まで侵害されざるを得ない立場になるので、これを知っていらっしゃる神様は、アダムとエバをもう一度救済する摂理を始められたのです。